



クイック検索

検索

目次

Copyright © 2015 NTT DATA INTRAMART
CORPORATION

目次

- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
- 3. intra-mart e Builder for Accel Platform 2014 Winter からの変更点
- 4. 機能一覧
- 5. プラグイン一覧
- 6. システム要件
- 7. 検証済み環境
- 8. 制限事項
- 9. 著作権および特記事項
- 10. 保証規程

改訂情報

変更年月日	変更内容
-------	------

2015-04-01	初版
------------	----

はじめに

本書の目的

本書では intra-mart e Builder for Accel Platform のリリース内容について記載されています。

製品の利用対象

次の利用を対象としています。

- intra-mart Accel Platform 上で動作するアプリケーションの開発を行う場合。

本書に記載されている外部サイトのURL

- 本書内で記載されている外部URLは、2015年04月 現在のものとなります。

intra-mart e Builder for Accel Platform 2014 Winter からの変更点

システム要件

- SAStruts S2JDBC 開発モデル SQL から DTO と Service クラスを自動で出力するテンプレートを追加しました。
- Public Storage と System Storage に対して、コピー先を自由記述で入力できるようにしました。
- intra-mart Accel Platform 2015 Spring (Juno) に対応しました。

機能一覧

大分類	小分類	機能概要
共通機能	モジュール・プロジェクト作成機能	intra-mart Accel Platform 用の開発プロジェクトを作成する機能です。
	モジュールエディタ	モジュールメタデータファイル(module.xml)専用のエディタです。
	デバッグサーバ機能	e Builder から起動可能な「intra-mart Accel Platform」専用の開発環境用サーバです。このとき、「intra-mart Accel Platform」は、デバッグサーバライセンスとして動作します。
	immファイルエクスポート機能	開発が完了したモジュール・プロジェクトをユーザ定義モジュールファイルとしてエクスポートする機能です。
スクリプト開発支援機能	HTMLエディター	Eclipse WTPで提供されているWebページ・エディターにスクリプト開発用の入力補完とパレットメニューの追加、及び開発したHTMLのプレビューを表示し、開発を支援する機能です。
	JSエディター	スクリプト開発において、VJETで提供されているJavaScriptエディタに、入力補完を追加した開発支援機能です。
	デバッグ機能	開発したJSファイルに対するデバッグを行う機能です。
JavaEE 開発共通支援機能	JSPエディター	Eclipse WTPで提供されているWebページ・エディターにJSP開発用の入力補完とパレットメニューの追加、及び開発したJSPのプレビューを表示し、開発を支援する機能です。
	デバッグ機能	開発したJavaファイルに対するデバッグを行う機能です。
im-JavaEE Framework 開発支援機能	im-JavaEEフレームワークエディター	im-JavaEEフレームワークフレームワークでの開発を支援するエディター機能です。
業務スケルトン機能	基盤機能	業務スケルトンテンプレートを利用する機能と、業務スケルトンテンプレートの開発支援機能です。
	スクリプト開発用テンプレート	スクリプト開発用のテンプレートです。
	SAStruts+S2JDBC 開発用テンプレート	SAStruts+S2JDBC 開発用のテンプレートです。
	TERASOLUNA Global Framework 開発用テンプレート	TERASOLUNA Global Framework 開発用のテンプレートです。

プラグイン一覧

- intra-mart e Builder for Accel Platformを動作させるために同梱されているプラグインの一覧を本項で示します。
intra-mart e Builder for Accel Platformはeclipse、及びeclipseの各種プラグイン製品であり
以下によって開発されたソフトウェアが含まれております。
ソフトウェアのマニュアルなどの各種機能の詳細については各URLよりご参照ください。
ソフトウェアのライセンスについては、各URLで明記されている該当ページをご参照ください。
また、intra-mart e Builder for Accel Platformのプラグインの動作検証は下記のプラグインをインストールして実施しています。

OSS 製品 / intra-mart 製品	バージョン	ライセンス	URL
Eclipse IDE for Java EE Developers	3.7.2	EPL	http://eclipse.org/
AspectJ Development Tools	3.5	EPL	http://eclipse.org/ajdt
Babel Language Packs	R0.10.0	EPL	http://www.eclipse.org/babel/
Checkstyle	5.6.1	LGPL	http://eclipse-cs.sourceforge.net/
EclEmma	2.2.1	EPL	http://www.eclemma.org/
Findbugs	2.0.2	LGPL	http://findbugs.sourceforge.net/
JUnit Helper	1.12.0	ASL	http://junithelper.org/
M2E - Maven Integration for Eclipse	1.4.0	EPL	http://eclipse.org/m2e/
m2e connector for build-helper	1.15.0	EPL	http://www.sonatype.org/
Mylyn	3.8.4	EPL	http://eclipse.org/mylyn
propedit	6.0.1	EPL	http://propedit.sourceforge.jp/
Spring Tool Suite (STS) for Eclipse Indigo (3.7)	3.3.0	EPL	http://www.springsource.org/sts
VJET	1.0.0	EPL	https://www.ebayopensource.org/
Workspace Preference Transferrer	3.0.3	EPL	http://marketplace.eclipse.org/content/workspace-preferences-transferrer
intra-mart e Builder	8.0.7	IM	http://www.intra-mart.jp/
im-Juggling	1.0.0	IM	http://www.intra-mart.jp/
Bussiness Skeleton	2.0.2	IM	http://www.intra-mart.jp/



コラム

ASL : Apache License, Version 2.0

EPL : Eclipse Public License – v 1.0

LGPL : GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.1

IM : 株式会社 エヌ・ティ・ティ・データ イントラマート

システム要件

当バージョンにおけるシステム要件は次の通りです。



コラム

本ページでは、e Builder 本体とデバッグサーバに関するシステム要件について説明を行います。
デバッグサーバとは、e Builder から起動可能な「intra-mart Accel Platform」専用の開発環境用サーバです。
デバッグサーバとして利用できるWebアプリケーションサーバは、Resin 4.0 のみです。

各種別要件

種別	製品名
オペレーティングシステム	Windows 7 (32bit/64bit)
Java	Java SE Development Kit 7u7 以上
Eclipse	Eclipse 3.7.2 Indigo SR2
必要メモリ容量(JVM)	推奨する最小構成 1GB以上推奨
必要ディスク容量	2GB以上
intra-mart Accel Platform	intra-mart Accel Platform 2012 Autumn(Alba) ～ intra-mart Accel Platform 2015 Spring(Juno)



コラム

- 2013 Autumn 版より、開発時に利用するJDKに関してJDK6が廃止されました。必ずJDK7をご利用ください。
- 推奨メモリはe Builder for Accel Platformのみを動作させた場合の推奨メモリです。
intra-mart Accel Platformを動作させる場合は、動作させるためのメモリ領域の確保が必要となります。
詳細は「intra-mart Accel Platform リリースノート」を参照してください。



注意

- デバッグサーバは、上記のシステム環境にて intra-mart Accel Platform のセットアップを行います。
デバッグサーバは、開発環境としてe Builderから利用するに限り上記のシステム要件をサポートします。

検証済み環境

- 以下、弊社動作検証済み（推奨）の intra-mart 製品と他社ミドルウェア製品との組み合わせを記します。
弊社では以下の環境をサポートしますが、intra-mart製品以外（OS、JavaVM、Eclipse及び各種Eclipseプラグイン等）に起因する問題が発生した場合は保証致しかねます。

クライアント環境

OS	JDK
Windows 7 SP1 (32bit/64bit)	Java SE Development Kit 7u7 以上



コラム

- eclipse はすべての検証においてEclipse 3.7.2 Indigo SR2を利用しています。
検証した際にeclipseにインストールされているプラグイン一覧は「[プラグイン一覧](#)」を参照してください。

デバッグサーバ環境

- intra-mart Accel Platform 2015 Spring(Juno)

制限事項

当バージョンにおける制限事項は以下のようになります。

共通機能

デバッグサーバライセンスには各種利用制限があります。

- デバッグサーバライセンスとは、開発支援ツール「e Builder」を購入したお客様が開発用に利用できる「intra-mart Accel Platform」のライセンスです。デバッグサーバライセンスは、「intra-mart Accel Platform アドバンス」と同等のライセンスとなり、アプリケーションの開発を目的に、Accel Platformのすべての機能を利用できます。
デバッグサーバライセンスには以下の注意事項および利用制限があります。
* デバッグサーバライセンスは開発用途でご利用ください。運用用途にはご利用できません。
* デバッグサーバとして利用できるWebアプリケーションサーバは「intra-mart Accel Platform」でサポートされる Resin のみです。
* 「intra-mart Accel Platform」を購入している場合、「intra-mart Accel Platform」に同梱されている Resin Pro をご利用できます。
* サーバ構成はスタンドアローン構成のみです。分散構成は構築できません。
* intra-mart Accel Applications およびその他の Extensions 製品の開発環境での利用については別途ライセンスが必要になります。
* intra-mart Accel Platform エンタープライズ で開発するお客様は IM-BIS、および IM-FormaDesignerのライセンスが必要となりますので、別途ご購入ください。

デバッグサーバ機能はintra-mart Accel Platform 2013 Spring(Climbing)より利用できます。

- デバッグサーバ機能は、intra-mart Accel Platform 2013 Spring(Climbing)より利用できます。
intra-mart Accel Platform 2012 Autumn(Alba) および 2012 Winter(Bourbon) で利用する場合、別途 intra-mart Accel Platform のライセンスが有効である必要があります。

Webアプリケーションサーバ「Resin」に複数のwarファイルをデプロイして開発することはできません。

- デバッグサーバとして利用するWebアプリケーションサーバ「Resin」に複数のAccel Platform 構成ファイル(warファイル)をデプロイした場合、デバッグサーバライセンスやスクリプトデバッグ等のデバッグサーバ機能が正常に動作しません。
そのため、デバッグサーバとして利用するWebアプリケーションサーバ「Resin」にデプロイするAccel Platform 構成ファイル(warファイル)は1つにしてください。

プロジェクト作成時にエラー・ログにエラー・メッセージが表示されますが、生成されたプロジェクトに問題はありません。

- プロジェクトの作成時に、eclipseのエラー・ログ上に「Failed to update project build path.」というメッセージが表示されますが、生成されるプロジェクトには特に問題はありません。
生成されたプロジェクト上での開発は可能です。

```
org.eclipse.dltk.mod.core.ModelException: リソース・ツリーは修正中のため、ロックされています。
at org.eclipse.dltk.mod.internal.core.ModelOperation.runOperation(ModelOperation.java:784)
at org.eclipse.dltk.mod.internal.core.ScriptProject.setRawBuildpath(ScriptProject.java:1947)
at org.eclipse.dltk.mod.internal.core.ScriptProject.setRawBuildpath(ScriptProject.java:1918)
at org.ebayopensource.vjet.eclipse.core.PiggyBackClassPathUtil.savaVJetEntries(PiggyBackClassPathUtil.java:506)
at org.ebayopensource.vjet.eclipse.core.PiggyBackClassPathUtil.initializeScriptProjectFromJavProject(PiggyBackClassPathUtil.java:426)
at org.ebayopensource.vjet.eclipse.core.ts.EclipseTypeSpaceLoader.populateGroupInfos(EclipseTypeSpaceLoader.java:843)
at org.ebayopensource.vjet.eclipse.core.ts.EclipseTypeSpaceLoader.processAddGroup(EclipseTypeSpaceLoader.java:597)
at org.ebayopensource.vjet.eclipse.core.ts.EclipseTypeSpaceLoader.processChanges(EclipseTypeSpaceLoader.java:570)
at org.ebayopensource.vjet.eclipse.core.ts.EclipseTypeSpaceLoader.resourceChanged(EclipseTypeSpaceLoader.java:529)
at org.eclipse.core.internal.events.NotificationManager$1.run(NotificationManager.java:291)
at org.eclipse.core.runtime.SafeRunner.run(SafeRunner.java:42)

-- 中略 --
```

プロジェクト名とアーティファクトID(ショートモジュールID)に入力する値は同一にしてください。

- プロジェクト名とアーティファクトID(ショートモジュールID)は同一の値に設定してください。
現在新規プロジェクトのウィザードにて自動的に同期をとるようにしています。
また、それに伴いプロジェクト名には半角英数字と「_」(アンダーバー)のみを利用できるように設定しています。

Eclipseにインストールされているプラグインすべてが翻訳されているわけではありません。

- e Builder は Eclipse IDE for Java EE Developers をベースに構成されます。
Eclipse IDE for Java EE Developers 機能のラベルやメッセージは通常英語であり、日本語化および中国語化には、Eclipse Babel を利用します。

e Builder が提供する機能に関しては、e Builder が提供するプラグインでは日本語化を行っています。
他のプラグインが提供する機能については、各プラグインが提供する範囲で言語対応がされています。
そのため、一部の機能ではラベルやメッセージが英語のまま表示されたりする場合があります。

e Builderのモジュール・プロジェクトからユーザモジュールをエクスポートする場合、依存関係が必ず設定されている必要があります。

- e Builderで出力されるユーザモジュールは必ず何かしらのモジュールを設定する必要があります。
ユーザモジュールの依存関係の設定方法に関しては「intra-mart e Builder for Accel Platform ユーザ操作ガイド」の「module.xml」の章を参照してください。

スクリプト開発

Webページ・エディターでタグ内の属性値にタグを入力するとデザイン・ビューで表示が崩れることがあります。

- HTML中のタグ内の属性値として、<imart type="string">タグを記述した値を、
""(ダブルクォーテーション)で囲んで入力するとデザイン・ビューの表示が崩れます。
デザインビューでの表示を崩さない方法として、タグの属性値に<imart>タグを利用する場合
"(シングルクォーテーション)で囲むと崩れずに表示されます。

```
<input type="hidden" id="target_locale" value="<imart type="string"
value=target_locale></imart>"></input>
```

構造上、問題のないタグに対して警告が表示されることがあります。

- <form><table>の組み合わせを行うとバリデーションで警告が出てきますが、
実行した際にはこのタグの組み合わせは問題ありません。

```
<form>
<table>

-- 中略 --

</table>
</form>
```

HTML仕様上利用できる属性がWebページ・エディターのバリデーション機能で「undefined」と警告される場合があります。

- Webページ・エディターのバリデーション機能でHTML仕様上利用できる属性が「undefined」と警告される場合があります。
たとえば、formタグにid属性を追加した場合、「undefined attribute name (id)」と警告されます。
このように、HTML仕様上利用できる属性が警告される場合、この警告は無視してください。

ソースファイルのエンコードはUTF-8で統一してください。

- 開発時のファイルのエンコードはUTF-8で統一してください。

JSエディターでメソッドの“(“の後ろで入力補完を利用するとエラーが発生します。

- JSエディターで、メソッドの“(“の後ろで入力補完を利用しようとすると、エラーが発生します。
これは、プラグインとして同梱されているVJETエディターの影響によるものです。

JSエディターでletを利用すると警告が出ますが、問題ありません。

- JSエディターでletを記述すると、エディター上に警告が表示されますが、
実行した際には特に問題はありません。

VJETエディター上でデバッグを行った場合、特定の変数にマウスカーソルを合わせると「エラー・ログ」ビューが表示されます。

- 変数にマウスカーソルを合わせてオブジェクトの情報を表示しようとすると、「エラー・ログ」ビューが出力されることがあります。
上記の現象は、プラグインとして同梱されているVJETエディターの影響によるものです。

VJETエディターの入力補完で表示されるスクリプト開発用のAPIの候補リストは intra-mart Accel Platform の最新版に追従しています。

- VJETエディターの入力補完で表示される候補リストは intra-mart Accel Platform の最新版に追従しています。
そのため、旧バージョンの intra-mart Accel Platform 上で開発する場合に、その intra-mart Accel Platform 上では利用できないAPIも表示されることがあります。

利用可否についてはAPIリストの内容をご確認ください。

HTMLエディターおよびWebページ・エディターの入力補完で表示されるimartタグの候補リストは intra-mart Accel Platform の最新版に追従しています。

- HTMLエディターおよびWebページ・エディターの入力補完で表示されるimartタグの候補リストは intra-mart Accel Platform の最新版に追従しています。
そのため、旧バージョンの intra-mart Accel Platform 上で開発する場合に、その intra-mart Accel Platform 上では利用できないimartタグや属性が表示されることがあります。
利用可否についてはAPIリストの内容をご確認ください。

スクリプトデバッグでは、ブレークポイントのスキップができません。

- スクリプト開発のJSエディターに配置したブレークポイントにスキップの設定を行っても、設定が有効にならず停止します。
本現象はVJETエディター、JavaScriptエディター双方に発生します。

JavaEE開発共通

パレットの表示メニューで、HTMLとJSPで共通のメニューは表示設定が同期しています。

- パレットのカスタマイズでHTMLエディターに対し、パレットメニューの非表示を選択すると、JSP側にもパレットメニューの非表示が反映されます。

JSPエディターでは、intra-martが提供するタグに対して必須属性のチェックのバリデーションが表示されません。

- JSPエディターで設定するintra-mart独自のタグに対し、必須属性の欠落に関するバリデーションは表示されません。
intra-mart独自のタグタグの実装を行う際はAPIリスト等でタグの必須属性に欠落がないかを確認してください。

JSPエディターではタグの属性値の有無に関して、バリデーションを表示しません。

- JSPエディターで存在しない属性の値を入力してもバリデーションは表示されません。
各タグに設定できる属性に対してはAPIリスト等で存在する属性かどうかを確認してください。

構造の問題のないタグに対してバリデーションが表示されることがあります。

- <form><table>の組み合わせを行うとバリデーションで警告が出てきますが、実行した際にはこのタグの組み合わせは問題ありません。

```
<form>
<table>

-- 中略 --

</table>
</form>
```

ソースファイルのエンコードはUTF-8で統一してください。

- 開発時のファイルのエンコードはUTF-8で統一してください。

Java8から採用された文法で記述するとエラーとなります。

- e Builder で利用しているeclipse Ver.3.7.2は標準でJava8のコンパイル機能を持っていないため、ラムダ式等Java8から追加された文法を記述すると文法エラーが発生します。

業務スケルトン機能

クラス名、パッケージ名、フィールド名等を入力する項目に関しては一般的なJavaの命名規則に従い入力してください。

- 一般的なJavaの命名規則に従っていないクラス名(例: 全て小文字のクラス名)、パッケージ名(例: 大文字,"-"が含まれるパッケージ名)、フィールド名(例、先頭が大文字のフィールド名)を指定した場合、意図しない動作を行うスケルトンが出力される可能性がありますのでご注意ください。

モデルの定義におけるフィールド名は必ず1つ以上のフィールド名を指定する必要があります。

- 製品標準で提供する業務テンプレートの中で、入力項目の内、モデルの定義としてフィールド名を要求するものが存在します。そのため、モデルの定義におけるフィールド名は必ず1つ以上のフィールド名を指定してください。

著作権および特記事項

intra-mart は株式会社 NTT データ イントラマートの登録商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Eclipse.org(<http://www.eclipse.org>)は開発を促進するために形成されたソフトウェア開発ツールベンダーのコンソーシアムです。

EclipseはEclipse.org Projects におけるオープンソースの統合環境開発ツールです。

文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

本製品を使用する場合は、本製品に含まれる各ソフトウェアのライセンスについても同意したものとします。

各ソフトウェアのライセンスについては、同封のライセンスシートをご参照ください。

以上

保証規程

保証内容及び対象

この保証規程（以下、「本書」という。）並びに貴社が当社と締結した一切の契約が定める要件（システム要件を含むがそれに限らない。）

及び制限事項の範囲内にて貴社が本製品を利用することを条件として、当社は貴社に対し、本製品に同封され、又は当社ホームページ（<http://www.intra-mart.jp/document/library/?product=ebuilder>）に掲載されているマニュアルの最新版のとおり本製品が動作することを保証します。

なお、当該保証は、貴社における内部的使用を目的とする限りにおいて適用されるものです。
また、当該保証は、当社の一方的な裁量により、無償で交換若しくは修補、又はかかる本製品の対価としてイントラマートが貴社から受領した金額の返金のいずれかの方法によるものとします。

上記の対応は、正規の当社製品を購入され、適法かつ誤りなくユーザー登録を完了されたお客様のみに当社が行うもので、当社はその他の対応又は保証、特に本製品をインストールしたハードウェア、接続製品、及びそれらに保存されたソフトウェア、データ等の保証（但し、これらに限られない。）は一切行いません。

保証の適用除外

下記の場合は動作保証が適用されません。

- 貴社が、本書又は貴社が当社と締結した一切の契約に定める要件（システム要件を含むがそれに限らない。）その他の制限事項の定める範囲内にて本製品を利用しなかった場合
- 火災、地震、水害、落雷、ガス害、塩害およびその他の天災地変、公害等の外部的事情による誤動作の場合
- 合理的な使用方法に反するご利用に起因する場合
- 貴社あるいは第三者が改変・変更等及びそれらの作業を行ったことに起因する場合
- 本製品以外のソフトウェア、ハードウェア等との互換性の問題から生じる場合

免責

本製品に関する当社の損害賠償責任は、理由のいかんを問わず、本製品の「ソフトウェア使用許諾契約書」に定める責任の限定の範囲内といたします。

その他の契約との関係

本製品の保証に関して、貴社が当社と締結した一切の契約と本書の間に齟齬がある場合には、本書の記載が優先するものとします。